

第9回 定時社員総会資料

一般社団法人日本医療薬学会

日 時 : 平成29年3月24日(土) 16時～16時40分

場 所 : トラストシティカンファレンス・仙台 (Room 2・3)

第9回 定時社員総会 次第

1. 会頭挨拶

2. 成立確認

3. 議事録署名人の指名

4. 協議事項

第一号議案 平成28年度事業報告（案） 1ページ

第二号議案 平成28年度決算報告（案） 25ページ

第三号議案 平成28年度監査報告 32ページ

第四号議案 平成29、30年度推薦代議員の選出 33ページ

5. 報告事項

平成29、30年度推薦代議員選挙結果 35ページ

平成 28 年度事業報告(案)

日本医療薬学会は、医療薬学の進歩及び普及を図り、もって我が国の学術文化の発展と国民の福祉の向上に寄与することを目的に設立され、現在では、医療に携わる全ての薬剤師・薬学関係者の基盤となる最大の学会に成長している。医薬品の適正使用や安全管理の推進、治療や地域医療への薬剤師の関与、医療現場からの創薬推進など、科学的で専門的な薬剤師業務や医療現場からの先進的な薬学研究は社会からの強い要請である。また、薬学教育 6 年制が平成 18 年に導入され約 11 年が経過し、認定・専門薬剤師制度も確立されるなど、薬剤師の教育やキャリアアップへの学会の貢献も大きい。本学会の役割はますます重要性を増し、医療薬学分野の体系化と発展を目指し事業をさらに進める必要がある。

平成 28 年度は、3 月に開催された第 8 回定時社員総会において新任者 10 名を含めた新役員体制が承認され、同総会の終結時より理事 20 名と監事 3 名が就任した。年末時点の会員数は 11,823 名(団体を含む)、うち正会員数が 11,577 名であった。正会員数に限れば、前年より約 780 名、前々年より約 1,500 名の増加が見られた。

当年の事業は、就任 3 年目を迎えた佐々木均会頭の下、既存事業の深化と新規事業の拡充化を図った。新規事業として、学術活動の活性化を目的としたサイエンス研究の活動を推進させるため、企画を担う医療薬学学術委員会、その下部組織として具体的な活動を実践する小委員会を発足させた。平成 29 年度には活動を具体化させるとともに、さらに小委員会を増やして幅広い分野・領域の研究活動を推進させる予定である。また、薬学生が参画して研究発表ができる機会として、平成 29 年度よりフレッシャーズ・カンファレンスを毎年開催する計画を立案し、担当する小委員会を常設した。加えて、同カンファレンスや本学会年会への薬学生の参加を促すため参加費用の軽減を決定した

第 26 回目を迎えた年会は、松原和夫氏(京都大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長)を年会長として、平成 28 年 9 月 17 日から 19 日までの 3 日間にわたり国立京都国際会館をメイン会場として開催した。これまでの年会では最大級となる講演及びシンポジウムが開催され、前年度の年会と同様に 9,200 名を超える多くの参加者があり、活況を呈した。

日本薬学会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師研修センター及び本学会が共同で企画し、薬剤師研修センターが運営主体となっている生涯学習達成度確認試験が 7 月 31 日に実施され、1026 名が受験した。本学会は主体的に共通試験問題への協力をを行い、全国の薬剤師の知識レベルの向上に貢献し、医療薬学領域最大の学会としての役割を果たした。また、がん専門薬剤師認定制度が発足して 7 年目を迎え、認定者数が 500 名を超えた。今後も、がん専門薬剤師のみならず、認定薬剤師及び薬物療法専門薬剤師の認定事業を通じて、薬物療法の向上に寄与するとともに研究活動の活性化と会員の資質向上に努める。

第 9 回定時社員総会では新たに多くの代議員に就任していただく予定である。各代議員におかれではさらなる学会活動へのご尽力をお願いしたい。また会員の皆様には平成 28 年 11 月に行われた代議員選挙への積極的参加に感謝するとともに、今後とも本会の発展にご協力をお願いしたい。

平成 28 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

[1] 事業の部

1. 会員数(平成 28 年 12 月 31 日現在)

正会員：11,577名、 学生会員：200名、 賛助会員：17社・団体
購読者：29件、 名誉会員：20名

2. 認定薬剤師制度の認定数 (平成29年1月1日現在)

認定薬剤師：1,444名
指導薬剤師：793名
研修施設：255施設

3. がん専門薬剤師制度の認定数 (平成29年1月1日現在)

がん専門薬剤師：529名
がん指導薬剤師：225名
がん専門薬剤師研修施設：260施設

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数 (平成29年1月1日現在)

薬物療法専門薬剤師：32名
薬物療法指導薬剤師：21名
薬物療法専門薬剤師研修施設：213施設

5. 会議・委員会開催状況

社員総会2回(定時・臨時各1回)、定例理事会6回、臨時理事会1回、理事会事前打合せ5回、財務委員会5回(会計点検1回、予算編成に係る協議又は打ち合わせ3回、決算準備1回)、総務委員会2回(人事・労務等の点検1回、総務全般1回)、監事監査1回、広報委員会1回、国際交流委員会2回、出版委員会2回、出版委員打合せ3回(南江堂との「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法」改訂に関する打合せ2回を含む)、医療薬学編集委員会1回、JPSCS編集委員会1回、医療薬学教育委員会2回、企画・シンポジウム委員会2回、認定薬剤師認定制度委員会2回、がん専門薬剤師認定制度委員会2回、がん専門薬剤師研修小委員会2回、がん専門薬剤師アドバンスト研修会事前打合せ1回、がん専門薬剤師試験小委員会4回、がん専門薬剤師全体会議運営会議4回、がん専門薬剤師集中教育講座に関する日本病院薬剤師会・日本医療薬学会合同協議1回、専門薬剤師育成委員会(大学教員WG)1回、専門薬剤師育成委員会(保険薬局WG)1回、薬物療法専門薬剤師認定制度委員会3回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会3回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験実行小委員会7回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師試験問題作成小委員会1回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験問題作成、提供に係る検討WG3回(同試験の実施及び問題提供に係るセキュリティ対策の打合せ1回を含む)、日本薬剤師研修センターとの打合せ2回、功績賞選考委員会1回、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会2回、論文賞選考委員会1回、代議員選挙管理委員会1回、平成28・29年度役員候補者推薦委員会1回、利益相反マネジメント委員会1回、人事委員会1回、年会あり方検討委員会2回、医療薬学学術委員会の構築に係るWG1回、医療薬学学術小委員会1回、フレッシャーズ・カンファランス企画小委員会1回、大学教員・学生によるシンポジウムの開催に係る企画検討WG1回、年会長候補者推薦委員会1回、第26回年会に係る学会事務局とコンベンション会社の打合せ1回、第27回医療薬学会年会の修正予算案に係る打ち合わせ1回、医療薬学会の検討事項(課題)に関する打合せ1回

6. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 医療薬学の研究発表における倫理的問題に関する指針を改訂した。
- 2) 本学会年会長選任細則を制定した。
- 3) 旅費規程及び同細則を改正した。
- 4) 役員候補者選出規程を改正した。
- 5) 非常勤職員就業規則及び給与規則を改正した。
- 6) 委員会細則を改正した。
- 7) 平成 29・30 年度代議員選出に係る代議員選挙管理委員会を編成した。
- 8) 平成 29 年度事業計画の草案を検討した。
- 9) 平成 32 年、33 年度年会長候補者を推薦した。
- 10) 事務局職員の人事・労務等を調査した。

(2) 財務委員会

- 1) 平成 27 年度決算報告
 - ① 監事監査（平成 28 年 2 月 19 日）
 - ② 理事会報告（平成 28 年 3 月 2 日）
 - ③ 第 8 回定期社員総会 協議・承認（平成 28 年 3 月 26 日）
- 2) 平成 29 年度予算策定
 - ① 予算委員会（平成 28 年 8 月 9 日）
 - ② 理事会審議（平成 28 年 8 月 25 日）
 - ③ 第 8 回臨時社員総会 協議・承認（平成 28 年 9 月 18 日）
- 3) 会計点検
 - ① 財務委員長による点検（平成 28 年 9 月 8 日）
- 4) その他
 - ① 年会予算について
 - 年会あり方検討委員会（平成 28 年 2 月 15 日、10 月 15 日）
 - ② 次年度年会予算の協議（平成 28 年 9 月 17 日、第 4 回及び第 5 回定期理事会）
 - ③ 認定試験問題の外部提供に関する委受託経費に係る協議
(平成 28 年 11 月 25 日)

(3) 広報委員会

1) 学会パンフレットの改訂

2016 年度用の大幅な改訂を受け、今回の 2017 年度用改訂は現行版を基盤とし、新規に「会頭の紹介」を入れることを決め、新しい年度による数値等の更新、年会紹介、学生や若手薬剤師の新規入会促進を目的とした各種専門制度・認定制度の紹介、学会賞受賞者、海外派遣研修員の紹介等を含めた 2017 年度改訂版学会パンフレットを作成した。平成 28 年 9 月 17 日～19 日開催の第 26 回日本医療薬学会年会で配布し、以後、薬学部をはじめ関連機関へ配布した。

2) 学会ホームページ英語版の作成

日本語版ホームページの中から学会の目的・趣意や学会活動のページ等、海外に向

けて紹介できるページを選定し、英文翻訳を行った。掲載に向けて最終チェックを行っている段階である。

3) 学会ホームページ（日本語版）の改訂

トップページのデザイン性、機能性に注視した改訂を検討し、基本的な方向性を決定した。一方、内部構成・ツリーの変更を検討し、重複ページ等を削除・整理した。

(4) 企画・シンポジウム委員会

1) 公開シンポジウムの開催（開催地、実行委員長等）

① 第 61 回 茨城県、本間真人 氏（筑波大学附属病院）

7月31日、つくば国際会議場中ホール200において、テーマ「薬剤師に求められる副作用対策ーがん薬物療法を中心にー」を開催した。

② 第 62 回 新潟県、外山聰 氏（新潟大学医歯学総合病院）

10月30日、新潟ユニゾンプラザ多目的ホールにおいて、テーマ「ポリファーマシーの削減に向けて薬剤師ができること」を開催した。

③ 第 63 回 愛知県、松永民秀 氏（名古屋市立大学薬学部）

11月20日、名古屋市立大学薬学部（田辺通キャンパス）宮田専治記念ホールにおいて、テーマ「期待される薬剤師の役割と若い力」を開催した。

④ 第 64 回 徳島県、石澤啓介氏（徳島大学病院）

11月20日、徳島大学蔵本キャンパス長井記念ホールにおいて、テーマ「多職種連携が生む臨床研究の推進と社会への還元」を開催した。

2) 平成 29 年度の公開シンポジウムの開催計画

① 開催地、実行委員長（所属）

- ・ 北海道 田崎嘉一 氏（旭川医科大学病院 教授・薬剤部長）
- ・ 鳥取県 島田美樹 氏（鳥取大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）
- ・ 高知県 宮村充彦 氏（高知大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）
- ・ 沖縄県 中村克徳 氏（琉球大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

② 実行委員長に提示するテーマ

- ・ 医療現場と大学との連携
- ・ 地域包括ケア（チーム医療）
- ・ 研究倫理を踏まえた臨床研究の進め方
- ・ 専門薬剤師のアウトカム（検証、業務への活用・繋げ方）
- ・ ポリファーマシー
- ・ 医療経済
- ・ 医薬品安全管理（適正使用のための処方監査）
- ・ IT化と患者情報共有
- ・ 薬剤師のキャリアプランニングと生涯学習

3) 下部組織の委員会活動

平成 27・28 年の 2 年にわたり公開シンポジウムの枠組みの中で開催した薬学生と教員を主体とした企画を、独立をはかり継続的に開催することを検討した。本委員会の下部組織に位置するフレッシャーズ・カンファレンス企画小委員会を編成し、平成 29 年度より「フレッシャーズ・カンファレンス」として開催する予定である。

<第1回フレッシャーズ・カンファランス>（開催計画）

- ・日時 平成 29 年 6 月 25 日（日） 13 時～17 時頃まで
- ・会場 慶應義塾大学芝共立キャンパス
- ・実行委員長 大谷壽一 氏（慶應義塾大学）

(5) 会員委員会

- 1) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付け、理事会における審議事項として説明した。
- 2) 平成 29 年度会費納入願いについて、学会ホームページ「重要なお知らせ」欄及び『医療薬学』42巻11、12両号に掲載するとともに、該当する会員に対し 11 月、12 月に 1 回ずつ会費納入を促すメールを送信し、納入期限の周知に努めた。

(6) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第 42 卷 1 号～12 号を編集・発行した。
 - ① 年間 136 の論文投稿（非学会員から 8 編）があり、86 編の論文を採択した。
(採択率：63.2%)。
 - ② 年間 98 編の論文を掲載した。その内訳として、総説 4 編、ミニレビュー 4 編、一般論文 32 編、ノート 58 編であり、うち英文論文が 4 編含まれる。
- 2) その他の寄稿区分として、オピニオン 5 編、専門薬剤師リレーイッセイ 12 編、学会・研修参加報告 1 編を掲載した。
- 3) 推薦論文制度を導入し、投稿された論文 8 編のうち 5 編を採択した。
- 4) 投稿論文数の増加を目指して対策を検討した。

(7) JPHCS 編集委員会

- 1) 英文誌 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS) をオンラインジャーナルとして発刊し、第 2 卷(2016 年)の編集・発行を行った。
 - ① 2016 年中の投稿論文数は、総説 1 編を含む 55 編であった。
2014 年 33 編、2015 年 45 編と比較して着実に増加している。PubMed に収載されたことも要因となったと思われる。
 - ② 2016 年中の掲載論文数は、総説 1 編を含む 35 編であった。
2014 年 0 編、2015 年 35 編と比較し同数の掲載数であった。
 - ③ 採択率は、通算 52.6%、2016 年単年で 63.6% となった。
採択率上昇の主な変動要因は、創刊当時に多かった Editor-in-Chief レベルで Reject される海外からの粗悪な投稿の減少によるものであり、国内からの投稿論文に限ってはむしろ難化傾向にある。
- 2) Impact Factor の取得に向けた活動として、BioMed Central 担当者との電話会議、対面での委員会での議論を行い、毎月の発刊論文を欠かさないことや海外からの投稿を促進することなどの基本方針を確認した。また、海外の Editorial Board の拡充を検討することとした。
- 3) 投稿を促すためのプロモーション活動として、海外からの投稿促進については、競合他誌の情報を分析するとともに、海外での国際学会等でのプロモーション活動を引き続き検討する。また、国内向けの方策としては、平成 29 年度に本学会教育委員

会が主催する医療薬学教育セミナー等も活用してプロモーションを進める予定である。

(8) 認定薬剤師制度委員会

1) 認定薬剤師・研修施設の認定等

① 認定薬剤師認定申請者（認定薬剤師試験受験応募者）の受験資格の審査を行った後、平成 28 年 7 月 31 日（日）に認定試験を実施した。

申請者数 125 名、受験者数 122 名、認定者数 104 名（合格率 85.2%）

② 指導薬剤師委嘱応募者の審査を実施した。

申請者数 49 名、委嘱者数 45 名

（うち、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱を同時に受けた者の数 11 名）

③ 研修施設の認定申請を 2 期に分けて受付し審査を実施した。

申請施設数 28 施設、認定施設数 28 施設（1 期 14 施設、2 期 14 施設）、

④ 認定薬剤師更新者の審査を実施した。

申請者数 194 名、更新者数 194 名

⑤ 研修施設更新の審査を実施した。

更新対象施設数 48 施設、更新施設数 37 施設

⑥ 平成 29 年度の活動として、次の事項を決定又は検討する。

認定試験の日程を平成 29 年 7 月 30 日（日）とした。

研修施設の認定要件に係る見直しを、引き続き検討する。

認定薬剤師制度の Q&A の整備を検討する。

◆ 平成 28 年度の本制度における認定者、委嘱者及び研修施設の認定・委嘱数 ◆

認定薬剤師 298 名（新規 104 名、更新 194 名）

指導薬剤師 161 名（新規 45 名、更新 116 名）

研修施設 65 施設（新規 28 施設、更新 37 施設）

2) 認定試験問題作成への協力

平成 28 年度は、本学会の認定薬剤師試験問題をもとに、薬剤師生涯学習達成度確認試験に協力した。前年度の経験を踏まえ平成 29 年度に向けて、早期に試験問題作成に着手する必要性があることから下部組織である薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験問題作成小委員会の委員を増員し体制の強化を図った。例年よりも試験問題の作成スケジュールを前倒しするなどして、適切な試験問題の作成に努めた。

(9) がん専門薬剤師認定制度委員会

1) がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の認定審査並びに試験を実施した。認定者・施設数は、次のとおり。

① がん専門薬剤師・新規認定者数 75 名、更新認定者数 67 名、更新保留 5 名

② がん指導薬剤師・新規認定者数 21 名

③ がん専門薬剤師研修施設・新規認定施設数 12 施設、更新施設数 1 施設

2) 教育啓発活動として、集中教育講座、アドバンスト研修会、症例サマリー書き方講座、がん専門薬剤師全体会議、年会における教育シンポジウム等を実施した。

- 3) 専門薬剤師海外派遣事業として、ASCO 参加（米国シカゴ）並びにミシガン大学病院での研修に 2 名の研修員を派遣した。
- 4) 下部の小委員会活動は、下記のとおり。
 - ① がん専門薬剤師試験小委員会
がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、平成 28 年 11 月 20 日（日）に認定試験を実施した。受験者数 86 名中 75 名（87.2%）を合格とした。
 - ② がん専門薬剤師研修小委員会
がん専門薬剤師対象の第 4 回がん専門薬剤師全体会議（福岡市、平成 28 年 5 月 14 日）、第 4 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会（東京、平成 28 年 10 月 15 日）を企画・開催した。がん専門薬剤師集中教育講座は、日本病院薬剤師会との共催により計 4 回（東京 2 回、京都市及び福岡市）開催した。また、他学会が実施する講習会・教育セミナーについて、申請内容を審査して受講単位を認定した。
 - ③ 抗がん薬プロフィール小委員会
抗がん薬のリスク因子プロフィールの作成を開始した。本小委員会が作成した資料は日本癌治療学会ホームページ内の「がん診療ガイドライン」に掲載をする予定である。

（10）薬物療法専門薬剤師認定制度委員会

1) 薬物療法専門薬剤師認定制度委員会の活動

- ① 第 1 回薬物療法専門薬剤師認定制度委員会（3 月 4 日開催）において、研修施設及び薬物療法指導薬剤師の認定審査を実施した。前者には 15 施設、後者には 10 名から申請があり、本委員会で審査した結果、前者は全 15 施設、後者は 4 名を認定した。また、暫定措置終了後の各認定要件と更新認定要件の再整備の検討を早期に進めることを確認した。薬物療法専門薬剤師認定制度に関する Q&A を HP に掲載することを確認した。
- ② 第 2 回薬物療法専門薬剤師認定制度委員会（7 月 5 日開催）では、薬物療法専門薬剤師認定制度規程・同細則の見直しについて議論した。また、薬物療法専門薬剤師研修コアカリキュラムの改訂案を、理事会の議を経て HP に公開した。平成 29 年度の委員会活動計画を協議し決定した。暫定措置に基づく第 1 期目の薬物療法専門薬剤師に 3 名より申請があった。7 月 31 日に実施される認定試験を受験することを確認した。
- ③ 第 3 回薬物療法専門薬剤師認定制度委員会（12 月 2 日開催）では、薬物療法専門薬剤師の第 1 期目 3 名（28 年度の薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の合格者）と第 2 期目 11 名（本学会認定薬剤師）を合わせた 14 名の申請者の認定審査を実施し、8 名を認定した。また、平成 29 年度の薬物療法専門薬剤師認定事業のスケジュールを確認した。

2) 下部組織の薬物療法専門薬剤師研修小委員会の活動

- ① 薬物療法専門薬剤師集中講義を 2 回（東京、名古屋市）開催した。
- ② 他学会・団体が実施する講習会・教育セミナーについて、申請内容を審査して受講単位を認定した。

(11) 専門薬剤師育成委員会(拡大専門薬剤師育成委員会)

薬物療法専門薬剤師制度の今後の方向性と発展性について検討した。

- ① 大学教員及び保険薬局薬剤師の資質向上に繋がる認定制度のあり方を検討した。
- ② 大学教員及び保険薬局薬剤師の認定資格に係る各 WG を開催した。
- ③ 薬物療法専門薬剤師のサブスペシャリティ資格について協議した。

(12) 功績賞選考委員会

功績賞の受賞要件を充足する対象者及び過去の受賞者リストを基に、本選考委員会で審議を行い、同賞の受賞候補者として 2 名を選出し理事会に諮った。理事会の審議により下記のとおり受賞者が決定した。

<功績賞> 2名

- ・ 大森 栄 (信州大学医学部附属病院 薬剤部)
- ・ 望月 真弓 (慶應義塾大学 薬学部、慶應義塾大学病院 薬剤部)

(13) 学術貢献賞・奨励賞等選考委員会

平成 28 年度学術貢献賞、奨励賞については、従前と同様の要領で募集をしたところ、学術貢献賞に 1 名、奨励賞に 4 名の応募があった。本選考委員会において審議を行い、受賞候補者として学術貢献賞受賞候補者 1 名、奨励賞受賞候補者 3 名を選出し、理事会に諮った。また、医療薬学領域の研究活動の活性化を図るために、学位（博士）取得後 3 年以内の者を表彰する制度として平成 24 年度より設置した Postdoctoral Award には 11 名の応募があり、前者と同様に選考を行い、受賞候補者 5 名を選出した。理事会の審議により下記のとおり各受賞者が決定した。

<学術貢献賞> 1名

- ・ 有森 和彦 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)
研究題目 抗がん剤の適正使用および薬物療法向上に関する医療薬学研究

<奨励賞> 3名

- ・ 加賀谷 英彰 (秋田大学医学部附属病院 薬剤部)
研究題目 腎移植患者における免疫抑制剤の個別化療法の開発
- ・ 館 知也 (岐阜薬科大学実践薬学大講座 病院薬学研究室)
研究題目 患者の QOL 改善につながるファーマシューティカルケアの確立にむけて 一質問紙調査手法を基盤とした臨床薬学および臨床教育に関する研究ー
- ・ 山本 和宏 (神戸大学医学部附属病院 薬剤部)
研究題目 腎細胞がんに対する分子標的治療薬の有効性・副作用予測因子に関する研究

<Postdoctoral Award> 5名

- ・ 榎屋 友幸 (三重大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 Changes in the pharmacokinetics of teicoplanin in patients with hyperglycaemic hypoalbuminaemia: Impact of albumin glycosylation on the binding of teicoplanin to albumin

- ・ 近藤 智子 (鹿児島大学病院 薬剤部)
学位論文題目 低出生体重児無呼吸発作の治療・予防におけるアミノフィリンの有効性および安全性に関する臨床薬理学的研究
- ・ 野田 哲史 (滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 Assessment of sunitinib-induced toxicities and clinical outcomes based on therapeutic drug monitoring of sunitinib for patients with renal cell carcinoma
(腎細胞がん患者におけるスニチニブ血中濃度モニタリングに基づく副作用・有効性の評価)
- ・ 山田 尚広 (浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 ポリコナゾールのNオキシド化の代謝飽和は、臨床用量におけるポリコナゾールの非線形薬物動態を引き起こす
- ・ 渡邊 真一 (愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 The Pharmacological study of prophylactic and therapeutic agent for chemotherapy/radiotherapy-induced oral mucositis

(14) 論文賞選考委員会

平成28年度論文賞については、従前と同様の要領で募集を行い、応募論文及び推薦論文より選考した。本選考委員会において審議を行い、受賞候補論文として下記の3編を選出し、理事会に諮った。理事会の審議により下記のとおり各受賞論文が決定した。

- ・ 論文題目 進行再発大腸がんのFOLFIRI療法およびmFOLFOX6療法に対するIRIS療法の経済評価—費用最小化分析
著 者 清水久範、池田俊也、坂巻弘之、矢島秀一、池上直己、村山純一郎
(医療薬学 Vol. 41, #3, 153-162)
- ・ 論文題目 外来がん化学療法施行患者に対する薬剤師介入による副作用および疼痛改善効果についての定量的評価
著 者 若杉吉宣、森井博朗、須藤正朝、阪中美紀、野田哲史、薮田直希、三上貴子、園田文乃、河合由紀、目片英治、寺田智祐
(医療薬学 Vol. 41, #3, 173-178)
- ・ 論文題目 輸液に炭酸水素ナトリウム注射液(メイロン[®]静注)を混合する時の留意点 —点滴筒内液面低下と炭酸濃度の関係—
著 者 泉伯枝、豊田太一、青木光夫、大和孝江
(医療薬学 Vol. 41, #7, 455-462)

(15) 医療薬学教育委員会

臨床研究活動を実践するためのノウハウがなく、また指導が受けられる環境にない病院・保険薬局の薬剤師が大学又は臨床研究の実践力を有する病院などと連携し、臨床研究に取り組むことから臨床上及び臨床研究上の問題を解決して成果を上げ、学会発表から論文化に至るまでの研究活動を実践するための教育的なセミナーを開催し普及活動を行うこととした。

第1回医療薬学教育セミナーは、「臨床研究成果を論文にするために」というテーマ

で平成 29 年 4 月 16 日（日）に東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟 14 階 鉄門記念講堂にて開催することを決定した。講演者として、本学会の和文誌および英文誌それぞれの編集委員長と福原俊一先生（京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野）に依頼するほか、臨床研究の実施および論文化の実践例についてのシンポジウムを予定している。

（16）国際交流委員会

- 1) 平成 28 年 9 月 17 日～19 日に京都国際会議場で開催された第 26 回日本医療薬学会年会において、国際シンポジウム（17 日、13 時～15 時）を企画した。今回は、海外から 3 名（中国、韓国、オーストラリア）を招聘し、日本からは滋賀医科大学病院薬剤部長の寺田氏に依頼して、学会テーマである「明日を創るチーム医療」に合わせたテーマ「New and prospective profession of pharmacists in medical team」で開催した。150 名近い参加者があり、各国の薬剤業務の展開ならびにチーム医療等における薬剤師の関わりの現状や課題について意見交換が行われた。さらに、International poster 展示による発表も行われ、活発な討論が行われた。
- 2) 本学会ホームページの英文サイトの構築について広報委員会が主体的に進めているが、本委員会も英文校正に協力した。

（17）医療薬学学術委員会

学術活動の活性化を目的としたサイエンス研究の活動を推進するため、医療薬学領域の研究活動の企画を行う医療薬学学術委員会を発足させた。また、その下部組織として具体的な研究活動を企画、実施する学術小委員会を発足させた。平成 28 年度に発足した学術小委員会では、医療従事者向けの薬物相互作用の検討に関する手引きのようなものを作成し、新薬の相互作用に関する情報の評価方法や具体的な事例に対するマネジメントの方法などを示していくこととした。

- 1) 会議の開催
 - ① 第 1 回学術小委員会（仮称、サイエンスに関する小規模委員会）の構築に関するワーキンググループ（平成 28 年 7 月 27 日）
 - ② 平成 28 年度 第 1 回学術小委員会（平成 28 年 12 月 26 日）
- 2) 委員会の編成
 - ① 学術委員会を編成（第 4 回定例理事会承認）
 - ② 学術小委員会を編成（第 6 回定例理事会の承認）

（18）出版委員会

「病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法」（南江堂）シリーズの改訂することとなった。

- ① 改訂内容を確認した。
- ② 担当編集者、執筆者を決定した。
- ③ 執筆スケジュールを編成した。
2016 年 11 月： 執筆者確定、南江堂から初版執筆者交代の挨拶状送付
2016 年 12 月： 執筆依頼
2017 年 4 月： 原稿締切

2017年5月：編集査読、原稿調整

2017年7月：原稿完成

2017年9月：製作着手

(19) 利益相反マネジメント委員会

一般社団法人日本医療薬学会利益相反マネジメント規定に基づき、平成27年1月から12月までの期間について、全ての理事、監事、年会長、次期年会長、次々期年会長、公開シンポジウム実行委員長、各小委員会委員長および事務局長に提出を求め、一部の者を除き、概ね提出された。提出された自己申告書について記載の不備、記載漏れ等について、問題となる点が認められなかった。また、自己申告書が事務局内に適正に保管管理されていることを確認した。

(20) 人事委員会

平成28年4月に事務局の非常勤職員として1名を採用した。また、同年12月に非常勤職員の就業規則及び給与規則の改正を理事会に諮り、了承を取り付け平成29年1月より新たな規則を実施した。また、さらなる事務局体制の強化に務める。

7. 年会（第26回日本医療薬学会年会）

明日を創るチーム医療

開催日 平成28年9月17日（土）～19日（月・祝）

会場 国立京都国際会館ほか

(1) 事業内容

年会長講演	1題
特別講演	5題
特別企画公演	1題
教育講演	1題
日本医療薬学会 学術貢献賞受賞講演	1題
日本医療薬学会 奨励賞受賞講演	3題
日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演	5題
特別企画シンポジウム	3セッション
震災企画シンポジウム	1セッション
International Symposium (国際シンポジウム)	1セッション
シンポジウム（公募）	47セッション
市民公開講座	1セッション
一般演題	1,694題
i) 口演	302題（うち優秀演題候補45題）
ii) ポスター	1,396題（採択後取下げ4題）
International Poster	14題
平成28年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会／学術フォーラム	
共催セミナー	28セッション
日本薬科機器協会ワークショップ	

- ◆ 一般参加者数 9,219名
- ◆ 懇親会 405名（招待者除く）
- ◆ 市民公開講座 約350名

(2) 事業報告

第26回日本医療薬学会年会を、平成28年9月17日（土）～19日（月・祝）の3日間、国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都（京都市左京区）にて開催したところ、参加者は招待者を含め9,300名を越え、昨年に引き続き多くの方々にご参加いただいた。

本年会のメインテーマは、「明日を創るチーム医療」とした。特別講演は、最先端の研究や先駆的な医療を進めておられる国内外の5名の先生方に講演いただいた。特別講演1では、京都大学大学院医学研究科の湊長博先生が「PD-1 チェックポイント阻害がん免疫療法の現状と課題」と題して、革新的な治療法として注目されるがん免疫療法を概観するとともに、臨床使用される抗PD-1抗体の現状と課題について講演された。特別講演2では、University of MinnesotaのRobert J. Straka先生が「Precision Medicine and Cardiovascular Therapeutics: An Individualized Approach Towards Optimizing Drug Selection and Use」と題して、循環器領域におけるPrecision Medicineへの薬学的アプローチについて講演された。特別講演3では、Memorial Sloan Kettering Cancer CenterのRichard Tizon先生が「The Impact of Clinical Pharmacy Services on Cancer Care」と題して、がん治療における薬剤師の役割について、アメリカの病院における先進的な取り組みについて講演された。特別講演4では、京都大学大学院医学研究科の福原俊一先生が「現場の疑問に答える研究をデザインする」と題して、臨床現場で湧いてくる疑問や悩みからどのようにリサーチクエッシュンを作り、どのように研究デザインを組み立てていくかを解説した。優れた臨床研究を通じて医療の質の向上に貢献すると強調されていた。特別講演5では、公益社団法人全国自治体病院協議会の邊見公雄先生が「生命（いのち）輝かそう日本医療薬学会～チーム医療の中心は薬剤師～」と題して、チーム医療における薬剤師の重要性について力強く語り、薬剤師に温かいエールを送られた。さらに、特別企画講演では、厚生労働省保険局医療課薬剤管理官の中山智紀先生が「最近の医療を取り巻く状況の中で薬剤師に期待される役割」と題して、地域包括ケアシステムに代表されるこれからの医療のあり方について概説し、医療における薬剤師の重要性について講演された。また、教育講演では弁護士の赤羽根秀宜先生が「新しい薬剤師業務の展開～～法的解釈を考えよう～」と題して、新たな業務展開にあたって法規制をどのように考えていいか解説された。

本年会では、年会のテーマに即して「病診薬連携による地域におけるチーム医療の推進」、「病院薬剤師の明日を語る」、「iPS細胞を用いた新しい医療と創薬を考える」と題した特別企画シンポジウムを企画し、熱い議論がなされた。また、震災特別セッションを企画し、熊本地震における薬剤師の役割について情報を共有し、今後の災害医療における薬剤師の関わりについて議論した。

公募シンポジウムでは、多職種や施設間での連携などの新しいチーム医療の取り組みやその評価、ならびに医療薬学に関連するその他のテーマに関するシンポジウム

ムを公募し、最終的に85件の応募をいただいた。特に、これまでにオーガナイザーを経験されていない方々からの応募を促した。審査方法は、①学術的意義、②医療への貢献、③社会的意義／参加者の関心、④新規性、⑤年会テーマとの関連、⑥活動実績／準備状況の6つの評定要素に関する絶対評価を行い、さらに5段階の総合評点（相対的評価）を付すこととした。12名の実行委員による審査結果に基づき、最終的に組織委員会で47件を採択した。内容は多岐にわたり、専門薬剤師、他職種連携、医療安全、ポリファーマシーなどから、リサーチクエッショナリ立案、核医学、ファーマコメトリクス、かかりつけ薬剤師など、いずれも年会テーマに相応しい内容であった。より多くの参加者が希望するシンポジウムに臨むことができるよう、各会場のサイズをできるだけ大きくするとともに、中継会場と会場外のモニターを設置した。しかしながら、なお一部のシンポジウムでは会場外のモニターにも人があふれるほどの盛況ぶりであった。日本病院薬剤師会の「専門薬剤師制度（5部門）」に該当するシンポジウムは基本的に最終日の午後にまとめ、一般演題との重複を避けることで、ほぼ全ての方が参加可能なプログラムとした。

一般演題は、応募いただいた1701題を実行委員及び年会事務局にて指定した査読委員で審査を行い、1694題（口演：302題、ポスター：1396題）を採択した（採択後の演題取り下げ4題）。口演会場は、第1日目及び2日目においては5会場を、第3日目においては4会場を一般演題の会場として設定した。過去数年の医療薬学会年会において、一般演題の会場で混雑が見られたことから、比較的大きな部屋を含む130～270席の会場を割り当てた。その際、第25回年会の傾向と発表演題の内容を考慮した。大部分のセッションにおいて会場の席数の不足は見られなかつたが、優秀演題候補セッションなどの注目度の高いと思われるセッションにおいては会場から参加者があふれる事態となつた。一方、ポスター発表は、1日毎の貼り替えとしたこと、広い2会場を準備したこと、会期を通して混雑する程の状況に至らなかつた。

本年会では第25回年会と同様に、一般演題（口演）の中から優秀演題を選考した。まず、演題登録時に優秀演題候補として応募された189題について、実行委員11名による一次選考を行つた。選考方法は、第25回年会におけるものを参考としたが、要旨および応募理由による書面審査とし、1演題につき3名の審査員による5段階の相対評価を行い、上位45題を選出した。年会初日の二次選考では、①研究内容の新規性・学術的・社会的波及効果、②研究方法、結果および考察の妥当性、③プレゼンテーションの明瞭性（スライドレイアウトや発表方法の工夫）、④発表および質疑応答の準備状況や態度の4項目について、優秀演題選考委員15名による審査を行つた。審査結果に基づき、最終的に優秀演題選考委員会で9題の優秀演題を選出し、2日目の懇親会で表彰を行つた。

共催セミナーとして、3日間で28件のランチョンセミナーを実施した。座席数のおおよそ80%を事前登録制とし、整理券を年会参加証と共に郵送した。事前登録の際に、応募者が殺到しサーバーが止まってしまうトラブルが起り、関係者にご迷惑をかけてしまつたが、システムを改修し数日後の再実施により対応できた。

最終日の市民公開講座では、旭川医科大学法医学講座の清水恵子先生、弘前大学大学院医学研究科薬剤学講座の早狩誠先生、名城大学薬学部病態解析学の野田幸裕先生に「サスペンスの街京都—犯罪と薬物—」というテーマでご講演いただいた。

参加者も非常に多く、市民からの質問も止まないなど、とても盛況であった。

医療薬学会年会では演題数が急激に増加したため、要旨集は分厚くなり使い勝手が悪くなっていた。そこで、本年会では、要旨集を全て電子化し、Web 版要旨集と携帯端末用の要旨集アプリを導入した。演題の検索に加えて、聴講したいセッションや演題を自分のスケジュールとして登録することで大会期間中のオリジナル予定表が作成できるなどの機能を有し、ダウンロード数は 5,215 と参加者の半数以上の利用があった。また、年会会場にコンピューターとプリンタを設置するとともに操作説明者も配置し、参加者の利便性向上に努めた。ランチョンセミナーのチケット配布状況や、優秀演題受賞者の公表など、年会期間中の事務局からの連絡もアプリを通じて行うことができ、参加者にも好評であった。

子育て中の参加者を支援するため、本年会でも託児室を準備した（外部委託）。当初 1 日あたり 20 名の受け入れを上限としていたが、多くの応募があったことから受け入れ枠を拡大し、年会初日が 29 名、2 日目が 30 名、3 日目は 26 名の方に利用いただいた。しかし、小学生の応募などもあり、幼児を受け入れできない状況になってしまったことから、受け入れ年齢の再考が必要であると思われた。

昨年度に引き続き、年会の会期を 3 日間に延長した。3 連休に京都での開催であったことからホテルの予約が難しい状況であったが、大変多くの方にご参加いただいた。チーム医療をキーワードに薬剤師の将来像を見据え薬剤師の薬物療法への主体的な参加を進めるべく、大いに議論いただいたと確信している。大きな混乱もなく盛会のうちに終えることができたのは、日本医療薬学会理事会・事務局の絶大なるご支援と、組織委員・実行委員など多くの関係者のご協力によるものであり、感謝申し上げる次第である。

8. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第 61 回医療薬学公開シンポジウム

薬剤師に求められる副作用対策～がん薬物療法を中心に～

開催日 平成 28 年 7 月 31 日（日）

会 場 つくば国際会議場 中ホール 200

シンポジウム

座長：筑波大学附属病院薬剤部 教授・薬剤部長 本間真人

「高齢者における潜在的不適切処方と副作用の発現」

大阪薬科大学薬学部臨床実践薬学 准教授 恩田光子

「病院薬剤師が実践するレジメン評価とがん化学療法の副作用対策」

東京女子医科大学病院薬剤部 薬剤副師長 深谷寛

「薬薬連携による外来化学療法の副作用対策」

フレンド調剤自治医大東店 薬局長 本田泰斗

特別講演

座長：東京医科大学茨城医療センター薬剤部 薬剤部長 高橋利幸

「がん薬物療法における副作用の対策—薬剤師に期待すること」

筑波大学 医学医療系臨床腫瘍学 教授 関根郁夫

◆参加人数 145 名

(2) 第62回医療薬学公開シンポジウム

ポリファーマシーの削減に向けて薬剤師ができること

開催日 平成28年10月30日(日)

会場 新潟ユニゾンプラザ 多目的ホール

シンポジウム

座長：新潟大学医歯学総合病院薬剤部 鈴木直人

「日常業務から行えるポリファーマシーの削減に向けた取り組み」

医療法人知命堂病院薬剤科 武藤浩司

「在宅医療から考えるポリファーマシー解決へのアプローチ」

株式会社コム・メディカル蔵王調剤薬局 三浦雅彦

特別講演

座長：新潟大学医歯学総合病院薬剤部 外山聰

「時代がどう変化しようとも薬剤師が行うべきことは医薬品の適正使用！」

—簡易懸濁法から敗血症性DICのPBPM、そしてポリファーマシー改善まで—

医療法人渡辺会 大洗海岸病院薬剤部 新井克明

総合討論

司会：新潟大学医歯学総合病院薬剤部 鈴木直人

「ポリファーマシーの削減に向けて薬剤師ができること」

武藤浩司、三浦雅彦、新井克明、外山聰

◆参加人数 125名

(3) 第63回医療薬学公開シンポジウム

期待される薬剤師の役割と若い力

開催日 平成28年11月20日(日)

会場 名古屋市立大学薬学部 宮田専治記念ホール

特別講演

座長：愛知県病院薬剤師会 会長/名古屋市立大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長

木村和哲

「院外処方箋への検査値表記と薬学的管理の変化」

千葉大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長 石井伊都子

シンポジウム

座長：名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授 松永民秀

「これから地域医療における病院と薬剤師の在り方

～「世界健康半島」の実現を目指して～」

JJA愛知厚生連 知多厚生病院 薬剤部 薬剤部長 畑柳敏弥

「コミュニティー(形成)+薬剤師力=薬局(Community Pharmacy)」

はるか薬局 梅村紀匡

「医師から見た現在の薬学教育」

愛知学院大学薬学部薬物治療学 教授 加藤宏一

学生シンポジウム

座長：名古屋市立大学大学院薬学研究科 講師 菊池千草

「全国の熱い薬剤師に会って」

名城大学薬学部 4 年 日本薬学生連盟外務統括理事 山崎瑞季
「教育が私たちを作る」
名古屋市立大学薬学部 5 年 日本薬学生連盟交換留学委員長 古澤香菜
「医療人としての薬剤師」
東京薬科大学薬学部 3 年 日本薬学生連盟会長 北澤裕矢
◆参加人数 91 名

(4) 第 64 回医療薬学公開シンポジウム

多職種連携が生む臨床研究の推進と社会への還元
開催日 平成 28 年 11 月 20 日（日）
会 場 徳島大学蔵本キャンパス長井記念ホール
シンポジウム
座長：徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬剤学分野 講師 座間味義人
「臨床研究の意義と研究倫理」
徳島大学病院臨床試験管理センター長 楊河宏章
「臨床研究のデザインと研究の質を高めるための留意点」
新日本科学安全性研究所/聖マリアンナ医科大学薬理学 客員教授
(医学統計) 古賀正
「医師・臨床統計家との連携によって計画した前向き研究」
徳島大学病院薬剤部 薬品安全対策室長 櫻田巧
「医療には、どんな科学が必要だろうか」
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 副研究科長・医薬品臨床評価学 教授/
日本学術会議若手アカデミー 副代表 狩野光伸
特別講演
座長：徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床薬剤学分野 教授/徳島大学病院
薬剤部長 石澤啓介
「呼吸器疾患のトランスレーショナルリサーチ～アカデミア発の創薬を目指した
多職種連携～」
徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野 教授 西岡安彦
◆参加人数 154 名

9. がん専門薬剤師集中教育講座

(1) 京都

開催日 平成 28 年 2 月 21 日～22 日
会 場 京都大学百周年記念ホール
第 1 日 平成 28 年 2 月 20 日（土）
「泌尿器がんの薬物療法」京都大学大学院医学研究科 泌尿器科学准教授 神波大己
「がん薬物療法の臨床試験」神戸大学大学院医学研究科 腫瘍・血液内科教授 南博
「緩和医療とがん疼痛治療」埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部主任 佐野元彦
「乳がんの薬物療法」京都大学医学部附属病院 乳腺外科助教 高田正泰
「肺がんの薬物療法」京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学特定助教 永井宏

「婦人科領域がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
温泉川真由

「白血病、造血幹細胞移植」京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学講師
近藤忠一

「支持療法」がん研究会有明病院 薬剤部副薬剤部長 鈴木賢一

第2日 平成28年2月21日(日)

「放射線腫瘍学」京都大学医学部附属病院 放射線治療科講師 松尾幸憲

「抗がん剤の臨床薬理」滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長 寺田智祐

「がんの発生、転移、薬剤耐性」がん・感染症センター都立駒込病院 臨床検査科臨床
研究支援室医長・室長 小泉史明

「悪性リンパ腫の薬物療法」金沢大学附属病院 輸血部准教授 山崎宏人

「大腸がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 消化管内科病棟医長 濱口哲弥

「胃がんの薬物療法」愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部部長/外来化学療法
センター長 室圭

「安全な化学療法の実践」埼玉県立がんセンター 薬剤部副技師長 中山季昭

◆参加人数 468名

(2) 東京

開催日 平成28年5月21日～22日

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 藤原洋記念ホール

第1日 平成28年5月21日(土)

「肺がんの薬物療法」関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科科長 倉田宝保

「婦人科領域がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
温泉川真由

「胃がんの薬物療法」愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部部長/外来化学療法
センター長 室圭

「頭頸部がんの薬物療法」国立がん研究センター東病院 頭頸部内科科長 田原信

「泌尿器がんの薬物療法」国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科
松井喜之

「がん薬物療法の臨床試験」名古屋大学医学部附属病院 化学療法部教授 安藤雄一

「白血病、造血幹細胞移植」国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科科長
福田隆浩

「支持療法」金沢市立病院 薬剤室室長 河原昌美

第2日 平成28年5月22日(日)

「安全な化学療法の実践」がん研究会有明病院 薬剤部部長 濱敏弘

「がんの発生、転移、薬剤耐性」近畿大学医学部 ゲノム生物学教室教授 西尾和人

「悪性リンパ腫の薬物療法」金沢大学附属病院 輸血部准教授 山崎宏人

「抗がん薬の臨床薬理」滋賀医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 寺田智祐

「乳がんの薬物療法」国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科医長 向井博文

「緩和医療とがん疼痛治療」日本医科大学多摩永山病院 薬剤部薬剤部長 高瀬久光

「大腸がんの薬物療法」静岡県立静岡がんセンター 消化器内科医長 山崎健太郎

◆参加人数 455名

(3) 京都

開催日 平成 28 年 7 月 2 日～3 日

会 場 京都大学百周年記念ホール

第1日 平成 28 年 7 月 2 日(土)

「白血病、造血幹細胞移植」 北海道大学大学院医学研究科 血液内科学分野教授 豊嶋崇徳
「悪性リンパ腫の薬物療法」がん研究会有明病院 血液腫瘍科血液腫瘍担当部長 照井康仁
「婦人科領域がんの薬物療法」 京都大学医学部附属病院 周産母子診療部講師 濱西潤三
「肺がんの薬物療法」 京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学特定助教 永井宏樹
「緩和医療とがん疼痛治療」 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部 主任 佐野元彦
「大腸がんの薬物療法」 神戸大学大学院医学研究科 食道胃腸外科教授 掛地吉弘
「胃がんの薬物療法」 愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部部長/外来化学療法
センター長 室圭

「支持療法」 がん研究会有明病院 薬剤部 副薬剤部長 鈴木賢一

第2日 平成 28 年 7 月 3 日(日)

「がん薬物療法の臨床試験」 名古屋大学医学部附属病院 化学療法部教授 安藤雄一
「乳がんの薬物療法」 京都大学医学部附属病院 乳腺外科助教 高田正泰
「泌尿器がんの薬物療法」 慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室教授 大家基嗣
「がんの発生、転移、薬剤耐性」 がん・感染症センター都立駒込病院 臨床検査科
臨床研究支援室医長・室長 小泉史明
「小児がんの薬物療法」 京都大学大学院医学研究科 発達小児科学講師 平松英文
「抗がん剤の臨床薬理」 慶應義塾大学医学部 臨床薬剤学教授 谷川原祐介
「安全な化学療法の実践」 神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部 副部長代行
池末裕明

◆参加人数 465 名

(4) 福岡

開催日 平成 28 年 12 月 3 日～4 日

会 場 九州大学医学部百年講堂大ホール

第1日 平成 28 年 12 月 3 日(土)

「支持療法」 九州医療センター 薬剤部副薬剤部長 林稔展

「がん薬物療法の臨床試験」 国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門
米村雅人

「安全な化学療法の実践」 神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部副部長代行
池末裕明

「泌尿器がんの薬物療法」 宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座泌尿器科学分野教授
賀本敏行

「乳がんの薬物療法」 九州がんセンター 乳腺科部長 徳永えり子

「放射線腫瘍学」 九州国際重粒子線がん治療センター センター長 塩山善之

「白血病、造血幹細胞移植」 大分大学医学部附属病院 血液内科講師 緒方正男

「緩和医療とがん疼痛治療」 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長 高瀬久光

第2日 平成28年12月4日(日)

「悪性リンパ腫の薬物療法」九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科助教 白土基明

「大腸がんの薬物療法」九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座教授

馬場英司

「抗がん薬の臨床薬理」慶應義塾大学 医学部臨床薬剤学教授 谷川原祐介

「胃がんの薬物療法」九州大学大学院 消化器・総合外科診療准教授 沖英次

「肺がんの薬物療法」京都府立医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学教授 高山浩一

「がんの発生、転移、薬剤耐性」がん・感染症センター都立駒込病院

臨床検査科臨床研究支援室医長・室長 小泉史明

「婦人科領域がんの薬物療法」九州大学大学院 医学研究院生殖病態生理学准教授

園田顕三

◆参加人数 451名

10. がん専門薬剤師全体会議

第4回 がん専門薬剤師全体会議

開催日 平成28年5月14日(土)

会場 九州大学医学部 百年講堂

セッション1

「地域をレベルアップするがん専門薬剤師研修～他施設研修を中心に～」

認定制度委員会からのお知らせ

ランチョンセミナー(中外製薬株式会社 共催)

座長：池末裕明(神戸市立医療センター中央市民病院)

演者：がんサバイバーの方

「がん専門薬剤師に期待すること」

セッション2

「観察研究のススメ」

セッション3

「支持療法 pros and cons ～熱く語れ♪～」

セッション4

「薬剤師外来の現状と今後の展開」

「薬剤師外来」を始めよう！&「がん患者指導料3」の算定のポイント

イブニングセミナー(大鵬薬品工業株式会社 共催)

座長：谷川原祐介(慶應義塾大学医学部)

演者：佐々木康綱(昭和大学医学部 内科学講座腫瘍内科学部門 教授)

「抗悪性腫瘍薬の承認の陰に隠れた様々な課題」

◆参加者人数 265名

11. がん専門薬剤師アドバンスト研修会

第4回 がん専門薬剤師アドバンスト研修会

開催日 平成28年10月15日(土)

会場 がん研究会有明病院 研究棟1階 セミナーA・B室

症例検討1「胃がん」

講師：青山剛（がん研有明病院 薬剤部）
：高張大亮（がん研有明病院 消化器内科）
ランチョンセミナー
座長：濱敏弘（がん研有明病院 薬剤部長）
「肺がん化学療法最新情報～免疫チェックポイント阻害薬を中心に～」
講師：西尾誠人（がん研有明病院 呼吸器内科部長）
共催：小野薬品工業株式会社/ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社
症例検討2「肺がん」
講師：輪湖哲也（日本医科大学付属病院薬剤部/化学療法）
：峯岸裕司（日本医科大学付属病院 化学療法科医長）
講評 齊藤嘉津彦（がん専門薬剤師研修小委員会 委員長）
◆参加者人数 45名

12. 薬物療法専門薬剤師集中講義

(1) 東京

開催日 平成28年6月4日～5日
会場 日本薬学会 長井記念ホール
第1日 平成28年6月4日（土）
「脂質異常症」千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学講座准教授 竹本稔
「副鼻腔炎」山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科助教 森山元大
「骨粗鬆症」埼玉医科大学病院整形外科・脊椎外科教授 門野夕峰
「月経異常、不妊症」北里大学医学部産婦人科学(婦人科学) 講師 川内博人
「虚血性心疾患」国際医療福祉大学三田病院心臓血管センター 教授 岡部輝雄
「播種性血管内凝固症候群(DIC)」渡邊 栄三（千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学 准教授）
第2日 平成28年6月5日（日）
「真菌感染症」国立感染症研究所真菌部 部長 宮崎義継
「ネフローゼ症候群」東京女子医科大学血液浄化療法科 准教授 花房規男
「間質性肺炎」国際医療福祉大学三田病院呼吸器センター 呼吸器内科部長 望月太一
「強皮症、皮膚筋炎」北里大学医学部膠原病・感染内科学 講師 永井立夫
「認知症」杏林大学医学部高齢医学 教授 神崎恒一
「クローン病・潰瘍性大腸炎」千葉大学医学部附属病院消化器内科 助教 中川倫夫
◆参加者数 193名

(2) 名古屋

開催日 平成28年11月12日～13日
会場 愛知学院大学名城公園キャンパス キャッスルホール2階1202
第1日 平成28年11月12日（土）
「関節リウマチ」三重大学医学部附属病院 整形外科 講師 若林弘樹
「不整脈（心房細動）」岐阜大学医学部附属病院 材料部 臨床講師 久保田知希
「てんかんの基礎と臨床」岐阜大学医学部附属病院 小児科 助教 久保田一生
「甲状腺機能異常」岐阜大学医学部附属病院 免疫内分泌内科 臨床講師 廣田卓男

「肝炎・肝硬変」三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座消化器内科学 助教
杉本龍亮

「気管支喘息の最前線」岐阜大学医学部附属病院 第二内科・呼吸病態学 臨床准教授
大野康

第2日 平成28年11月13日(日)

「医薬品情報や薬物動態学の実務への活し方」東京大学医学部附属病院薬剤部
助教・副薬剤部長 大野能之

「腎不全(高度腎障害)・透析 患者における薬物投与設計」名古屋大学大学院医学系
研究科 循環器・腎臓・糖尿病(CKD) 先進診療システム学寄附講座 准教授 安田宜成
「神経因性膀胱・過活動膀胱」名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学 教授 後藤百万
「白血病」名古屋大学医学部附属病院 血液内科 講師 早川文彦
「加齢黄斑変性」三重大学大学院医学系研究科 臨床医学系講座眼科学 教授 近藤峰生
「統合失調症」名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野
教授 尾崎紀夫

◆参加者数 195名

13. 関係団体への協力(本学会役員)

- 1) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 理事:安原眞人 社員:本学会
- 2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
統括責任者:佐々木会頭
- 3) 平成28年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究」
研究代表者:安原眞人

[2] 組織運営の部

1. 平成 28、29 年度 役員の選出

平成 27 年 11 月に実施した役員候補者選挙において 15 名の理事候補者と 3 名の監事候補者が当選した。平成 28 年 3 月 26 日の第 8 回定時社員総会において 5 名の推薦理事候補を加えた新役員の選任決議が行われた。審議の結果、全 23 名の就任が了承され、同総会の終結時から任期 2 年として役員に就任した。

2. 平成 29、30 年度 代議員の選出

平成 28 年 11 月に実施した代議員選挙において 250 名が当選した。平成 29 年 3 月 24 日の第 9 回定時社員総会において、推薦代議員候補者の就任決議を行い、同総会の終結時より新たな代議員が就任する予定である。

事業報告附属明細書

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

1. 役員 (平成 28 年 3 月 26 日第 8 回定時社員総会終了後から就任)

会頭

佐々木 均 長崎大学病院

副会頭

井関 健	北海道大学大学院薬学研究院
奥田 真弘	三重大学医学部附属病院
山田 安彦	東京薬科大学薬学部

理事

青山 隆夫	東京理科大学薬学部
出石 啓治	いづし薬局
伊藤 清美	武藏野大学
大谷 壽一	慶應義塾大学薬学部
川上 純一	浜松医科大学医学部附属病院
崔 吉道	金沢大学附属病院
佐藤 淳子	医薬品医療機器総合機構
千堂 年昭	岡山大学病院
武田 泰生	鹿児島大学病院
濱 敏弘	がん研究会有明病院
松原 和夫	京都大学医学部附属病院
峯村 純子	昭和大学横浜市北部病院
宮崎 長一郎	有限会社宮崎薬局
望月 真弓	慶應義塾大学病院
山田 清文	名古屋大学医学部附属病院
脇山 尚樹	第一三共プロファーマ株式会社

監事

大石 了三	
安原 真人	東京医科歯科大学大学院
山元 俊憲	公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団

2. 事務局 (平成 28 年 12 月 31 日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 12-15 日本薬学会長井記念館 7 階
事務局長 1 名、非常勤職員 4 名

協議事項 第二号議案

平成 28 年度 決算報告（案）

自 平成 28 年 1 月 1 日
至 平成 28 年 12 月 31 日

貸 借 対 照 表

平成28年12月31日現在

(単位:円)

一般社団法人日本医療薬学会

科 目		当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部				
1. 流動資産				
現 金	預 金	金 金	191,035,284	143,595,449
未 収 払		金	7,616,812	12,929,965
前 金	預 払	金	1,371,688	1,218,720
仮 金		金	500,000	0
流動資産合計			200,523,784	157,744,134
2. 固定資産				
(2) 特定資産				
がん専門薬剤師海外研修引当資産			411,483	411,417
財政安定引当資産			100,000,000	100,000,000
特定資産合計			100,411,483	100,411,417
(3) その他固定資産				
器 具	備 品	金	905,220	751,093
建 物	附 属 工	金	4,855,778	4,963,088
ソ フ ト	ウ	金	260,050	367,150
電 話	加 入	金	74,984	74,984
差 入	敷 敷	金	8,018,910	8,018,910
差 入	保 証	金	1,452,384	0
その他固定資産合計			15,567,326	14,175,225
固定資産合計			115,978,809	114,586,642
資産合計			316,502,593	272,330,776
II 負債の部				
1. 流動負債				
未 支 払	預 金	金	11,850,344	12,882,850
未 預 金		金	777,983	361,150
前 受 金		金	22,733,500	23,249,600
流動負債合計			35,361,827	36,493,600
負債合計			35,361,827	36,493,600
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
寄 付	金	411,417	411,417	0
指定正味財産合計			411,417	411,417
2. 一般正味財産				
正味財産合計			280,729,349	235,425,759
負債及び正味財産合計			281,140,766	235,837,176
			316,502,593	272,330,776
				44,171,817

正味財産増減計算書

平成28年 1月 1日から平成28年12月31日まで

(単位:円)

一般社団法人日本医療薬学会

科 目		当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取員会費	会員費	費	費	
正学賛助	会員費	費	費	111,592,500
事務受取	会員費	費	費	109,981,500
受取員会業	会員費	費	費	991,000
受取員会業	会員費	費	費	620,000
受取員会業	会員費	費	費	148,901,800
受取員会業	会員費	費	費	132,125,400
受取審査	会員費	費	料	12,776,400
受取審査	会員費	費	料	4,000,000
受取審査	会員費	費	料	892,780
受取審査	会員費	費	料	892,780
受取審査	会員費	費	料	47,962,114
受取審査	会員費	費	料	47,962,114
受取審査	会員費	費	料	7,500,000
受取審査	会員費	費	料	7,500,000
受取審査	会員費	費	料	0
受取審査	会員費	費	料	8,848,220
受取審査	会員費	費	料	59,992
受取審査	会員費	費	料	5,739,680
受取審査	会員費	費	料	3,048,548
受取審査	会員費	費	料	325,697,414
経常収益計				
(2) 経常費用				
事業費	手	費	費	
給付料	利	費	費	254,909,630
法福会旅通定利	生	費	費	13,002,038
会旅通定利	通	費	費	2,238,967
会旅通定利	搬	費	費	46,158
会旅通定利	却	費	費	7,632,175
会旅通定利	備	費	費	21,239,517
会旅通定利	本	費	品	12,101,798
会旅通定利	入	費	品	482,282
会旅通定利	料	費	品	12,295,994
会旅通定利	耗	費	品	5,853,879
会旅通定利	耗	費	品	37,244,925
会旅通定利	耗	費	品	23,760
会旅通定利	耗	費	品	498,009
会旅通定利	耗	費	品	84,327,494
会旅通定利	耗	費	品	10,959,207
会旅通定利	耗	費	品	37,335,033
会旅通定利	耗	費	品	464,400
会旅通定利	耗	費	品	6,944,726
会旅通定利	耗	費	品	2,219,268
会旅通定利	耗	費	品	25,484,194
会旅通定利	耗	費	品	4,016,336
会旅通定利	耗	費	品	691,618
会旅通定利	耗	費	品	14,258
会旅通定利	耗	費	品	148,951
会旅通定利	耗	費	品	4,687,180
会旅通定利	耗	費	品	366,391
会旅通定利	耗	費	品	164,208
会旅通定利	耗	費	品	334,701
会旅通定利	耗	費	品	124,200
会旅通定利	耗	費	品	175,313
会旅通定利	耗	費	品	169,563
会旅通定利	耗	費	品	3,845,659
会旅通定利	耗	費	品	6,547,245
会旅通定利	耗	費	品	50,000
会旅通定利	耗	費	品	2,456,225
会旅通定利	耗	費	品	174,200
会旅通定利	耗	費	品	368,040
会旅通定利	耗	費	品	1,124,796
会旅通定利	耗	費	品	25,310
会旅通定利	耗	費	品	280,393,824
会旅通定利	耗	費	品	45,303,590
会旅通定利	耗	費	品	0
会旅通定利	耗	費	品	45,303,590
会旅通定利	耗	費	品	

正味財産増減計算書

平成28年 1月 1日から平成28年12月31日まで

(単位:円)

一般社団法人日本医療薬学会

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0		
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0		
当期経常外増減額	0		
当期一般正味財産増減額	45,303,590		
一般正味財産期首残高	235,425,759		
一般正味財産期末残高	280,729,349		
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 付 金	0		
受 取 寄 付 金	0		
一般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	0		
一般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	0		
当期指定正味財産増減額	0		
指定正味財産期首残高	411,417		
指定正味財産期末残高	411,417		
III 正味財産期末残高	281,140,766		

※公益法人会計基準適用初年度のため、前年度及び増減欄の記載は省略している。

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 適用している会計基準

今年度から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日平成21年10月16日改正内閣府
公益認定等委員会)を採用している。

ただし、公益認定前のため、正味財産増減計算書内訳表及び貸借対照表内訳表は
作成しておらず、財産目録の表示に係る規定は適用していない。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

建物附屬設備	定額法
什器備品	定率法

② 無形固定資産

定額法

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込経理を採用している

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附屬設備	9,711,556	4,855,778	4,855,778
什器備品	2,499,662	1,594,442	905,220
合 計	12,211,218	6,450,220	5,760,998

財産目録

平成28年12月31日現在

(単位:円)

一般社団法人日本医療薬学会

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	148,510
預金	普通預金		190,886,774
	みずほ銀行渋谷中央支店		130,075,233
	ゆうちょ銀行〇一九支店		60,726,994
	住友銀行渋谷駅前支店		42,381
	三菱東京UFJ銀行渋支店		42,166
未収金			7,616,812
正会員会費			764,500
年会精算金			6,385,104
その他			467,208
前払金			1,371,688
賃料・共益費			1,208,720
その他			162,968
仮払金			500,000
次回年会			500,000
流動資産合計			200,523,784
(固定資産)			
特定資産			
海外研修引当資産			411,483
普通預金			411,483
財政安定引当資産			100,000,000
定期預金			50,000,000
定期預金			50,000,000
その他固定資産			
器具備品			905,220
建物附属設備			4,855,778
ソフトウェア			260,050
電話加入権			74,984
差入敷金			8,018,910
差入保証金			1,452,384
固定資産合計			115,978,809
資産合計			316,502,593
(流動負債)			
未払金			11,850,344
法人税等・消費税等			5,007,500
経費その他			6,842,844
預り金			777,983
職員(社会保険料)			663,983
正会員会費			114,000
前受金			22,733,500
正会員会費			22,011,500
学生会員会費			26,000
賛助会員会費			480,000
購読料			216,000
流動負債合計			35,361,827
負債合計			35,361,827
正味財産			281,140,766

附 屬 明 細 書

平成 28 年度

1. 有形固定資産及び無形固定資産の明細

(単位：円)

資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	減価償却累計額	期末取得価額	
有形固定資産	器具備品	751,093	586,207	0	432,080	905,220	1,594,442	2,499,662
	建物附属設備	4,963,088	0	0	107,310	4,855,778	4,855,778	9,711,556
	計	5,714,181	586,207	0	539,390	5,760,998	6,450,220	12,211,218
無形固定資産	ソフトウェア	367,150	0	0	107,100	260,050	275,450	535,500
	電話加入権	74,394				74,394		74,394
	計	441,544	0	0	107,100	334,444	275,450	609,894

2. 引当金の明細

該当ありません。

協議事項 第三号議案

平成 29 年 2 月 23 日

監査報告書

一般社団法人日本医療薬学会
会頭 佐々木 均 殿

一般社団法人日本医療薬学会

監事 大石 了三



監事 安原 真人



監事 山元 俊憲



私たち監事は、当法人の平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの平成 28 年度の業務及び財産の状況並びに理事の職務執行について監査を行いましたので、監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法

各監事は、理事会に出席し理事及び使用人等からその職務の執行について報告並びに説明を受けるとともに、重要な決裁書類等を閲覧し、当法人の事務所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令又は定款に従い法人の状況を正しく示していると認めます。
- 二 理事の職務の遂行に関して、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示していると認めます。

協議事項 第四号議案

平成 29・30 年度 推薦代議員選出（案）

任 期 自 第 9回定時社員総会の終結後
至 第 11 回定時社員総会の終結時

平成 29, 30 年度推薦代議員候補者（案）

【25名】

氏名	勤務先
飯原 なおみ	徳島文理大学香川薬学部
石井 伊都子	千葉大学医学部附属病院
和泉 啓司郎	福島県立医科大学附属病院
伊藤 譲	レモン薬局三方原店
岡田 裕子	高崎健康福祉大学
神村 英利	福岡大学病院
川名 純一	医薬品医療機器総合機構
吉光寺 敏泰	MeijiSeika ファルマ株式会社
草井 章	北里第一三共ワクチン株式会社
國正 淳一	愛知学院大学
小林 篤史	八木ゆう薬局
佐藤 淳子	医薬品医療機器総合機構
四方 敬介	京都府立医科大学附属病院
鹿村 恵明	有限会社グッドファーマシー エムズ薬局
島田 美樹	鳥取大学医学部附属病院
立木 秀尚	東和薬品株式会社
外山 聰	新潟大学医歯学総合病院
長谷川 祐一	薬局タローファーマシー
堀 里子	東京大学
堀 仁	株式会社東川調剤センター ひがしかわ薬局
松本 有右	八王子薬剤センター
宮村 充彦	高知大学医学部附属病院
森田 豊	エルメッドエーザイ株式会社
横井 正之	株式会社パスカルシステム パスカル薬局
脇山 尚樹	第一三共プロファーマ株式会社

（五十音順、敬称略）

報告事項

平成 29・30 年度 代議員選挙結果

任 期 自 第 9 回定時社員総会の終結後
至 第 11 回定時社員総会の終結時

平成29・30年度代議員選挙当選者（250名）

(五十音順、敬称略)

青森 達	青山 隆夫	赤木 祐貴	赤瀬 朋秀	秋山 滋男	厚田 幸一郎
有吉 範高	栗屋 敏雄	家入 一郎	池末 裕明	池田 博昭	池田 義明
池田 龍二	石坂 敏彦	石澤 啓介	出石 啓治	井関 健	伊東 明彦
伊藤 清美	伊東 弘樹	伊藤 由紀	稻葉 一郎	猪爪 信夫	今村 知世
今村 牧夫	入江 利行	岩尾 岳洋	岩本 卓也	上野 裕之	内田 享弘
内田 まやこ	畠井 浩子	江頭 伸昭	遠藤 一司	遠藤 雅之	大井 一弥
大谷 壽一	大谷 道輝	大津 史子	大野 恵子	大野 能之	大林 恭子
大森 栄	岡本 稔晃	小川 竜一	奥田 真弘	尾鳥 勝也	折井 孝男
賀川 義之	笠師 久美子	桂 敏也	亀井 浩行	萱野 勇一郎	川勝 一雄
川上 和宜	川上 純一	川久保 孝	川添 和義	河原 昌美	川村 和美
神林 泰行	菊池 憲和	喜古 康博	木皿 重樹	北原 隆志	木村 和哲
木村 早希子	木村 健	木村 利美	木村 匡男	金 啓二	楠本 正明
工藤 賢三	倉田 なおみ	黒川 陽介	黒澤 菜穂子	黒山 政一	栗原 晶子
栗原 健	濃沼 政美	向後 麻里	幸田 幸直	後藤 愛実	後藤 千寿
後藤 伸之	小林 秀樹	小林 正紀	小林 道也	崔 吉道	齊藤 嘉津彦
齋藤 秀之	齊藤 浩司	佐賀 利英	阪口 勝彦	佐々木 忠徳	佐々木 均
佐藤 淳也	佐藤 真由美	佐藤 雄己	佐野 元彦	塩川 満	重山 昌人
篠原 久仁子	柴山 良彦	下枝 貞彦	下堂薦 権洋	白石 正	菅原 満
杉浦 宗敏	杉浦 洋二	杉山 正	鈴木 貴明	鈴木 洋史	関本 裕美
千崎 康司	千堂 年昭	高瀬 久光	高田 勝利	高田 龍平	高野 幹久
高橋 朗	高橋 一榮	高柳 理早	滝澤 康志	竹内 尚子	竹内 裕紀
武隈 洋	武田 泰生	田崎 嘉一	田中 昌代	谷 健太郎	谷川原 祐介
塚本 仁	継田 雅美	辻 敏和	辻 泰弘	辻井 聰容	寺田 智祐
寺町 ひとみ	徳永 仁	富岡 佳久	富田 国男	富田 隆	豊口 稔子
内藤 隆文	直良 浩司	長井 紀章	仲佐 啓詳	中島 克佳	長瀬 幸恵
永田 将司	中村 克徳	中村 敏明	中村 智徳	中村 暢彦	中村 浩規
中村 裕義	中村 安孝	中山 季昭	灘井 雅行	並木 路広	新岡 丈典
西口 工司	西澤 健司	西田 英之	西原 雅美	西原 昌幸	西村 信弘
野崎 歩	野添 大樹	野田 敏宏	野田 幸裕	橋田 亨	橋本 浩伸
長谷川 敦	長谷川 洋一	花田 和彦	花輪 剛久	濱敏弘	浜田 幸宏
林 高弘	林 稔展	林 誠	林 昌洋	平木 洋一	平田 純生
平塚 真弘	平野 剛	深津 祥央	藤田 行代志	芳地 一	堀 雄史
本間 真人	前田 賴伸	楳本 博雄	増田 智先	町田 充	松浦 克彦
松尾 宏一	松下 良	松田 浩明	松永 民秀	松原 和夫	松久 哲章
松元 一明	眞野 成康	眞野 泰成	三浦 崇則	三浦 昌朋	三角 紳博
峯村 純子	三宅 健文	宮崎 長一郎	宮村 重幸	宮本 康敬	名徳 倫明
村井 ユリ子	村木 優一	村田 實希郎	室井 延之	望月 眞弓	百瀬 泰行
森 英樹	森田 俊博	八重 徹司	安野 伸浩	安原 真人	矢野 育子
矢野 良一	山浦 克典	山折 大	山口 浩明	山口 雅也	山田 清文
山田 孝明	山田 安彦	山本 康次郎	山本 武人	山本 雅人	湯川 栄二
吉野 宗宏	吉村 知哲	米澤 淳	米村 雅人	龍島 靖明	和田 敦
渡部 一宏	渡邊 徹	渡邊 裕之	渡辺 善照		